2015 年 11 月 24 日

トルコ観光振興 WG　現地視察 報告書

➢ アスペンドスについて

2 日目（11/7）、Crowne Plaza Antalya Hotel から 2016 年エクスポ会場を車窓確認しながら、アスペンドス遺跡へ。私自身、アスペンドスローマ劇場はアンタルヤ 1 といえる、魅力ある古代遺跡の中の 1 つと考えています。保存状態は世界の中でもトップクラスでほぼ完ぺきな状態で残されています。

TK53 便で早朝イスタンブールに到着後、そのまま国内線でアンタルヤへ 1 時間程度のフライト、アンタルヤ空港からから、約 1 時間ほどのアクセスなので、アスペンドス遺跡、シデ遺跡と共に半日観光としてツアーへ組入れてゆくべきと考えています。

既に、弊社から各旅行会社へ提案するアンタルヤの観光には当遺跡への観光は必ず組入れておりますが、アンタルヤ自体の認知度が旅行会社を含め、日本では大変低いため、実際に商品化されることはほぼ無いに等しい状況でもあります。

アンタルヤを含む地中海地域が日本のツアーで商品化されない問題点について；

1．　アンタルヤの認知度が、ほぼ無い。
2．　リゾートとして売り出すには、王道のハワイやアジアのリゾートに対して劣る。というイメージ。
3．　トルコというと、イスタンブール、カッパドキア、パムッカレの西トルコ周遊ツアーが主流になり、10 万円を切る旅行代金が一般化されているため、「新しいディスティネーションを組入れる＝旅行代金の上昇」が受け入れられない。

解決策として・・

1．　テレビ、雑誌などでの露出を多くする。特に、女性をターゲットに的を絞る。
2．　リゾートとしてだけで売り出すのではなく、日本人観光客に受ける「遺跡周遊」も組み入れ、またトルコの文化の紹介や体験型ツアーを企画、また、地中海性気候の為年間温暖なアンタルヤは、オフシーズンといわれる 11 月～3 月がホテル料金も下がり、おすすめ。
3．　「新しいディスティネーションを組入れる＝旅行代金の上昇」を受け入れてもらう解決策の一つは、『付加価値のある企画』を組入れること、であると思います。
夏のオンシーズンには「アスペンドス・オペラフェスティヴァル」が毎年行われており、欧米からのリゾート客で客席は埋め尽くされ、古代ローマ繁栄の礎に身をおきながらの観劇は、圧巻といえます。また、トルコを代表するダンスグループ「アナドル・アテシュ」の観劇（6 月頃～10 月頃まで）も、ツアーに組み入れることで、付加価値のあるツアーが企画出来ると考えています。

2010 年「アスペンドス・オペラフェスティバル」の様子

2010 年「アナドル・アテシュ公演」の様子

〈参考資料〉

「アナドル・アテシュ」ＨＰ

http://www.anadoluatesi.com/

➢ スィデ（古代劇場、博物館、アポロン神殿）について

アスペンドス遺跡観光後(15:30 発)、シデ遺跡へ(16:00 着)。

シデは、西暦 2～3 世紀に商業都市、3 方をエーゲ海に囲まれ良港を備えており、特に奴隷売買の町として繁栄しその当時の遺跡が残っている。一旦は衰退したものの、5 紀以降キリスト教徒により、その後、クレタ島からの移民者たちにより 19 世紀後半まで重要な都市として栄えた。

駐車場から半島先の「アポロン神殿跡」までの間に、アゴラ、博物館、古代劇場、そしてお土産屋さんやレストランが沿道にならび、観光地化している。博物館は当時のハマムを改装したもので、シデ遺跡からの発掘物(主にお棺や大理石の石像)が陳列、また、当時のハマムの構造がよくわかる。閉館時間があるので、博物館を先に観光することがお勧め。

先のアスペンドス遺跡では古代劇場のみが残っていたが、町として全体を観光するには、シデ遺跡がお勧め。

アスペンドス遺跡＋シデ遺跡はセットで回りたい。

17:30 頃、地中海に沈む夕日が「アポロン神殿」を赤く染め、神秘的で時間が過ぎるのを忘れるほどの美しさ。ツアーでもこの時間帯に訪問したい。また、遺跡内には、レストランやカフェが立ち並び、絶景を眺めながらの夕食(シーフード)もおすすめ。

シデは、古語で「ザクロ」の意味だそうで、現在もアンタルヤ地方は秋から冬にかけてザクロの産地として有名。特に、沿道のフレッシュジュース屋さんでは、その場で新鮮なザクロを絞り、飲ませてくれる。1 カップは 3TL～1 0 TL ほど(場所により価格が変動)。

ザクロはビタミンが豊富で、女性にとって美容、健康上に大変おすすめ。

ハマムを改修した博物館内

沿道にはレストランやお土産屋さんが立ち並ぶ

沿道のフレッシュジューススタンド

夕日に染まる港
この後ろにはシーフードレストラン有り

「アポロン神殿跡」

「G20」の檀上でも活躍!?・・紹介されてしまうほど
トルコで猫は愛されています

➢ アンタルヤ（旧市街カレイチ、ブティックホテル、ハドリアヌス門について）

3 日目(11/8)、Crowne Plaza Antalya Hotel を 8:40 出発、途中アンタルヤ考古学博物館前の広場にて下車し、トルコのリビエラと称賛されるコンヤアルトゥビーチを撮影。その後カレイチへ(9:00 到着)。アンタルヤ考古学博物館前からカレイチ前通過して路面電車が通っているので、アクセスも簡単。

街のシンボル「時計塔」の横からカレイチへ。11 月初旬でオンシーズンは過ぎているが、両脇のショップはほとんど開いている。石畳でマリーナへ向かって下り坂になっているので滑りやすいところが多い。カレイチ内は左右に道が枝分かれてしており、至る所に古い建物(オスマントルコ時代)がそのまま残っていて、シャッターチャンスとなる風景が多く残っている、歩いていて飽きない場所である。

マリーナは、規模小さく、現在は観覧船が多く停泊、地中海クルーズの料金はその場交渉とのこと。

その後、マリーナの上 (城壁)から地中海を一望できる Turk Evi Otel 内のレストラン＆バーへ。ここからの景色は絶景です。

その後、カレイチ内を東へ・・、途中、18 世紀にたてられたオスマン時代の邸宅を改装した「Alp Pasa Otel」を視察。ホテル内には発掘物などが随所に残されており、ホテル自体が小さな博物館の様になっている。2010 年、私自身も宿泊をしたことがありますが、カレイチ内のブティックホテルでは、雰囲気、サービスともにＮＯ１といえるホテルの一つです。

「Alp Pasa Otel」から「ハドリアヌス門」へ。130 年にハドリアヌス帝がアンタルヤのファセリスを訪れた際に、同帝をたたえて、コリント式円柱と美しく装飾された 3 つのアーチを持つ門が作られました。その門が現在もきれいに残っており、カレイチの名所の一つとされています。約 1 時間半ほどかけてカレイチを散策しましたが、カフェでゆっくりしたり、雑貨店を見て回ったり、景色を楽しんだり・・1 日中いても楽しめる場所です。

アンタルヤ考古学博物館前の広場から撮影

時計塔の横を通り、考古学博物館前まで走る路面電車

シーズンオフだが、想像以上ににぎわっていた

古い建物が並ぶ小道

マリーナの風景

マリーナ上の城壁内に建つ「Turk Evi Otel」のレストラン＆バーからの一望

「Alp Pasa Otel」中庭

「ハドリアヌス門」

「Alp Pasa Otel」外観

➢ サガラッソスについて　　マリーナ上の城壁内に建つ
「Turk Evi Otel」のレストラン＆バーからの一望

アンタルヤを 10:30 発、Sagalassos Loge & Spa Hotel12:15 着。昨年 7 月にオープンしたかわいらしい小さなホテル。

ホテルにてブッフェ形式のランチ。食材の野菜は全てホテル敷地内の自家菜園。ヨーグルトも地元のミルクを使ってホテルで作ったもの。

濃厚でとてもおいしかった。ホテル内は絵画や美術品できれいにまとめられており、100 名程度の会議室もある。

韓国からの観光客、サガラッソス遺跡発掘調査隊のベルギーからの利用客が大多数とのこと。ウスパルタまで 1 時間ほどの距離なので、

バラフェスティバルなどに合せて、日本からの観光客も取り入れたいとホテルのマネージャーが話していました。

ホテルから 15 分ほど、標高 1500mのところに「サガラッソス遺跡」があります。この遺跡は全体の 25%ほどしか発掘は終わっていない、とのことで、番号が振られた支柱や、石柱がそこらじゅうに積み重ねられたままでした。サガラッソス遺跡の向かいには古代から「アレキサンダーの丘」と呼ばれる山(山頂が平ら)があり、現在も多くの謎が解明されていない遺跡の一つです。

7 世紀の大地震で大打撃を受けた後、1706 年に発見されるまで長らく土に埋もれており、1990 年から本格的に発掘調査が始まったとのこと。エフェス遺跡とともにトルコの三大遺跡といえるほどの大規模、また重要な遺跡でもあり、今後の発掘調査が楽しみです。

この遺跡のメインは最後の五賢帝マルクス・アウレリウス・アントニウスが創らせた「ニンフェウムの泉」で、現在はほぼ修復が終了し(1 階部分のみ)当時同様に水も噴出しています。

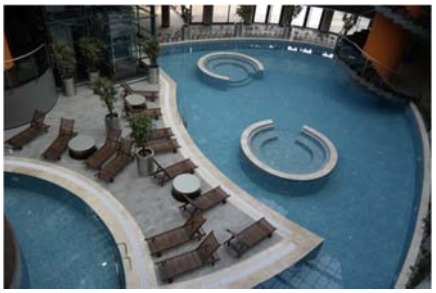
「ニンフェウムの泉」から上がっていくと、9,000 席のローマ劇場がありますが、7 世紀の大地震の打撃で入口部分、一部観客席は崩れたままの状態で、一般的なツアーに組み入れるには安全面から考慮すると難しい状況です。後で調べたところ、このローマ劇場は世界で一番高いところにあるテアトロだそうです。ローマ劇場の下方には、床にモザイクがきれいに残る古代ギリシャ時代の図書館もあり、普段は施錠されていますが、遺跡の入口でお願いすれば鍵を開けて見せてくれます。

「Sagalassos loge&spa hotel」

➢ 温泉地カラハユットについて

サガラッソス遺跡 15:30 発、「Doga Thermal Otel」18:30 頃着。

2014 年オープン、カラハユットで唯一の 5 つ星の温泉ホテル。弊社でも昨年よりグループツアーで利用。お客様からの評価は大変良い。各部屋には日本語の案内(館内、温泉効用など)もある。また、22:00～23:00 の間は、各部屋に温泉が引かれ、部屋のバスタブにて温泉が楽しめる。



➢ パムッカレについて

4 日目(11/8)、ホテル 8:05 発、パムッカレへ。8:30 ヒエラポリス遺跡到着、観光。1988 年に世界遺産に登録された、日本のトルコツアーにはカッパドキアと共に必ず訪問される地。パムッカレは、「綿の城」という意味をもつ。また、ヒエラポリスは、「聖なる都市」という意味を持ち、古代ローマ時代(2 世紀頃)の重要とされ栄えた街の一つ。

2012 年に視察したときに比べ、敷地内がきれいに整っていた。特に感じたのは、以前は敷地内に犬が多かったが、今回は全くと言ってよいほど、犬がいなかった。また、入り口には 5 人乗り(ゴーカート/1 時間 100TL)、2 人乗り(3 輪バイク/2 時間 40TL)の貸出があり、有料で利用できる。敷地内は広いので、高齢者や足が不自由な方には大変便利。

朝も早かったため、比較的観光客は少なく、韓国のグループ(20 名ほど)のみ。石灰棚を正面からみて左側の棚にはお湯が流れていなかった。近年、観光化が進み石灰棚の汚れ、損傷が問題になっていることから、棚にお湯を流すことに制限が敷かれている。

しかし、パンフレットなどをみて訪れた人には、失望を与える可能性があるので、パンフレット表記には注意が必要。

石灰棚を後にして、Antik Pool へ。度重なる大地震でヒエラポリスは廃墟と化し、現在はその一部が温泉の中に沈み、神秘的な遺跡プールとして有名となっています。

石灰棚を下から望む。
スキー場へ来たかのような錯覚を覚える白さ。

有料にてレンタル可能

2012 年時の石灰棚

現在の石灰棚

正面から左側の棚にはお湯が流れていない。

正面から右側の棚にはお湯が流れていた。

Antik Pool

石灰棚の汚れ。

➢ ダルヤン（クルーズ、泥風呂、岩窟墳墓、アオガニ、タートルビーチ）について

パムッカレ 9:45 発、ダルヤンのクルーズ船乗り場 12:45 着、小型ボートで川を上りレストランへ移動(13:00 着)。

川辺の見晴らしの良いレストランで、川魚又はチキンをチョイス、前菜とサラダはブッフェ形式になっている。

ダルヤンのボート乗り場

川辺のレストラン(左奥)

川魚のランチ

食事後、対岸の泥風呂へボートで移動(5 分ほど)。日本の温泉地を匂わせる硫黄の匂いで、懐かしさを感じる。
訪問時は利用客無し、泥温泉は低温の為、ツアーに組み込むのであればオンシーズンに限られると思います。
この泥温泉は、リウマチ、血液循環、ストレスに効能があるとされ、また硫黄分をたっぷり含む泥は美肌効果も期待できる。
シャワーの完備有り。

泥風呂(温泉)

泥風呂を視察後再びボートに乗り込み(13:55 発)、ダルヤン川を下りタートルビーチ(イズトゥズイビーチ)へ向かいます。途中、断崖絶壁にはリキア時代の貴族の岩窟墓が並び、その壮大に驚かされます。更にデルタ地帯を進むと、ボート上でアオガニを販売する男性二人組に遭遇、日本からきたツーリストのためにアオガニを餌として、赤ガメ(カレッタカレッタ)を誘き寄せてくれようと頑張ってくれましたが、残念ながらこの日は赤ガメをお目に掛けることは出来ませんでした。

14:50 イズトゥズビーチ(タートルビーチ)着、5 ㎞ほど長く広がる美しい砂浜が魅力で、ＥＵ認定のブルーフラッグビーチでもあり、また、自然保護地区に指定されています。その理由は、このイズトゥズビーチはカレッタカレッタ(赤ガメ)の産卵地でもあり（毎年 5 月から 9 月の間 50～150 個の卵を産む）この時期はカレッタカレッタを保護するため夜間の出入りが禁止されています。

岩窟墓

アオガニを釣り糸に巻き付け、赤ガメを誘い出す

イズトゥズビーチ(タートルビーチ)

17:00 にダルヤン船場へ戻りミニコーチでチッタスローに登録の「Akyaka」へ。

夕暮れに染まる中、Akyaka ボートクルーズ。川の水深は 5mほどあるにもかかわらず、水は澄み切っており川底まで見通せるほどの美しさ感動しました。この川の水は、地底からの湧水だそうです。Akyaka を訪れて実感したのですが、ゆっくりと時間を忘れて過ごす地として最高な場所だと思いました。現在の忙しく巡るトルコ 8 日間、10 日間ツアーとは別に、「スローライフをトルコで過ごす」という様な企画が認知され、提案ができればと思いました。

Akyaka ボートクルーズ(夕暮れ時であったため、ピントがボケています)

川沿いのレストランにて夕食
ライトアップされて幻想的

川藻がのったサラダ。
歯ごたえがある・・

Akyaka で採れた魚
新鮮で大変美味しかった。

- ホテル（VoyageTorba & Private、マンダリンオリエンタル、マルマラ）について

20:55 ボドルム着、宿泊は Voyage Torba & Private Hotel。中庭のプールを囲うようにコテージが立ち並ぶ、小規模のおしゃれなブティックホテル。FIT、女性、カップルなどにおすすめ。シャワーのみ。しかし、場所は、ボドルム中心地とは半島の反対側になるため、観光には不適切な面もある(ホテルからボドルム城まで車で約 30 分)。当ホテルの向かいに姉妹ホテルの一般的な大型ホテルがあり、宿泊客はレストラン、バー、ハマムなどを無料で利用が出来る。

Voyage Torba & Private Hotel

朝食はセットメニュー
ゆっくりと過ごしたい旅行には
最適なホテル

◆マンダリン・オリエンタル ホテル

2014 年 7 月にオープンした、地中海を一望できる極上の 5 つ星ラグジュアリーリゾートホテル。2 つのプライベートビーチ(ジュジュビーチとブルービチーチ、後者は宿泊者のみ利用可能)を持つ。60 ヘクタールの敷地内には宿泊施設として 59 室の STD ルームは全て 72 ㎡以上の広さがあり、27 室のそれぞれのスイートルームにはプライベートプール、テラス、庭付き。また、23 室の贅を尽くしたアパートメントタイプのスタイリッシュなヴィラがある。全客室、バスタブ付き。ホテル全体はアジアン調に統一されており、スパメニューも豊富。さらに、198 戸のレジダンスがあり、現在ほぼ完売の状況とのこと。

一般的に 4 月～10 月頃までがオンシーズで、この期間はイタリアンレストラン、トルコ料理ソフラレストラン、日本料理レストラン(クロちゃん)、また、ビーチ、プールサイドのレストランやカフェ、バーなど全 11 か所で、様々なグルメ料理、ドリンクを堪能できる。
11 月以降は、ソフラレストランがメインでオープンとのこと。

オンシーズン中の利用客層は以下の通り (稼働率 90%)

- トルコ 40%
- 英国 10%
- ドイツ 8%
- ロシア、アラブ 6-7%
- アメリカ、オランダ 4%

オフシーズンの期間は、主にグループツアー、トルコ国内の企業によるミーティング、インセンティブなどの利用が多い。

日本からのツーリストはほぼ無いに等しいため、今後取り込んでいきたいとのこと。

また、ホテルのアクティビティとして、地中海クルーズ (full day,half day)、体験型として、オリーブ摘み体験、マッシュルーム狩り体験、オレンジ収穫体験などもある。それぞれ収穫したものから、工場でオリーブオイルを作ったり、ホテル内レストランでオレンジパイを作ったりする(1 名 250TL～)。また、近くにはボドルム・ゴルフクラブ(9 ホール)があり 130TL で利用できる。

玄関ホールからテラスへ・・

STD ルーム

スイートルームのプライベートプール

スパ

◆マルマラ・ボドルム ホテル

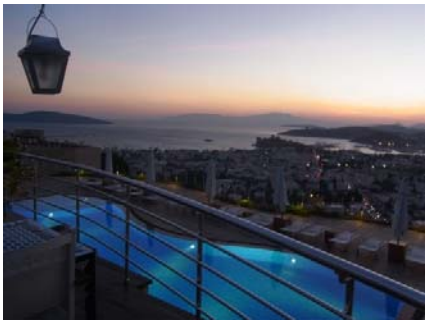
16:45 マルマラホテル到着、丁度夕日が地中海に沈むころで、高台に建つホテルのテラスから夕焼けに染まるボドルムの街を一する事ができました。ホテルは、ボドルムの街並みに合せて、白を基調とした落ち着いたリゾートホテルで、弊社との関係も良好なホテルです。ホテル内の壁(廊下)には、地元の方々の微笑んだ写真パネルが 1 枚 1 枚飾られており、シックなホテルでありながら地元の方々つながりのあるとても温かいホテルという印象を受けました。

※当ホテルは 12 歳に満たないお子様のご利用は出来ないようです。

デラックスルーム

スイートルーム

部屋のテラスからの景色



➢ ボドルム（ボドルム城、ランチクルーズ）について

◆ボドルム城(ボドルム水中考古学博物館)

ボドルムを代表する観光名所の一つで、必ず訪問したい場所。先に下車観光したマウソロス廟の石材が多く利用されて造られた、15 世紀の十字軍の要塞、その後はオスマン帝国 10 代スルタンのスレイマン大帝の手に渡った。また 19 世紀には一時刑務所としても利用されていた。

博物館内は、水中で発掘された沈没船やその遺品が数多く展示されている。中でも世界で一番古い難破船「ウルブルン沈没船」(約 3500 年前)を展示するギャラリーもある。

展示品もゆっくりと時間をかけて見たいと思いましたが、何よりもこの博物館から眺める景色が最高です。

城内には、イギリスの塔、フランスの塔、ドイツの塔などと名前が付けられた塔があり、それぞれの塔から見渡すボドルムの街並みや地中海の景色にとても感動しました。

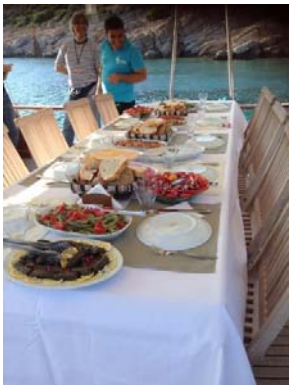
◆地中海クルーズ（13:45 頃出航＝＝＞15:00～15:40 船上でランチ＝＝＞16:20 マリーナ着）

博物館を出て、マリーナのお土産屋さんを冷やかしながら進むと、クルーズへ案内してくれる船長さんが出迎えてくれました。

エンジンがなかなか掛からず、クルーズ中止かと一瞬ヒヤッとしましたが、その後は順調で、青い空と地中海に吸い込まれるように進んで行きました。この素晴らしい素材、経験をどのように紹介し商品化してゆくか・・大きな課題です。

ランチは、お肉でしたが、お魚メニューも可能です。船長が焼いたキョフテは今までで食べた中で、一番美味しいとキョフテと感じました。

また、船内は宿泊施設もあり宿泊を伴ったクルージングも可能。



船長が直々に焼く、キョフテ、シシケバブ、骨付きラム

➢ 村の模擬挙式について

GEKA の方が、以前別のインスペクションで村の(模擬)挙式を案内したところ、大変好評だったとの事で、今回の視察でも手配をしてくださいました。トルコの結婚式は地域や村によって異なり、中々目にすることが出来ないので大変貴重な体験となりました。

会場はトルコの民族楽器で生演奏が続き、お客様(今回の視察チーム)に食事が振る舞われました。(お客様が食事に手を付けないと、次の儀式に進めないとの事で、遠慮なくみなさんで頂きました)

エーゲ海地方の最大の特色は、efe といわれる民族衣装を着た男性が勇気と英雄を象徴したこの地域の伝統的なダンス、では無いかと思います。男性 3 人が民族衣装に身を包み、力強く踊る様子は神聖的な雰囲気でした。

その後、新郎新婦が登場し、婚礼の儀式、民族衣装を着た女性たちによるお祝いのダンス等が行われました。

今後のトルコツアーで、今までに無い特色、付加価値としての素材として、模擬挙式はとてもユニークな素材になると感じました。

現状の、忙しいツアーで世界遺産を巡るだけではなく、トルコの歴史、文化に興味がある方に向けた特別なツアーの企画に組み込めてゆきたいと思います。

Efe を着た男性によるエーゲ海地方の伝統的なダンス

https://youtu.be/fx9sJe0Q3iI

➢ エフェス、聖母マリアの家、博物館、アルテミス神殿跡、シリンジェについて

既に、トルコ周遊 8 日間、10 日間の一般的なツアーではエフェスの観光(エフェス遺跡、聖母マリアの家、博物館、アルテミス神殿跡)が含まれており、更に、「エフェス遺跡」においては、今年世界遺産に登録されたこともあり、トルコツアーには欠かせない観光名所の一つであるといえます。

ほとんどのツアーがイスタンブールから空路でイズミール空港へ移動し、エフェスの観光を半日で終え、パムッカレへ移動します。または、イスタンブールから陸路でダーダネルス海峡を渡り、南下してエフェス観光、そしてパムッカレへ・・という、エフェス(イズミール)には宿泊せず、通過点として立ち寄る程度の旅程が主流となっていますので、先の地中海「ボドルム」とエーゲ海「エフェス」をメインとしたゆっくりと滞在しながらの企画も面白いのではないかと思いました。

また、イズミールの街から 30 分ほどの「シリンジェ村」は、ツアーに組み入れるスパイスとして面白い素材になると思います。

山間の小さな村ですが、風情のある石畳や、古いかわいらしい家々、お土産屋さんなどがコンパクトにまとまっていて、ゆっくりと散策を楽しみながら、お店のおじさんとの値段交渉、道端でレース編みをしているお母さんとの会話など、現地の人々と交流ができる魅力的な場所でもあると思います。

- ホテル（スイソティル）について

旧グランドエフェスホテルから、全面改装し 2008 年スイソテルとしてオープン。

エーゲ海を正面に A 塔、両サイドに B、C 塔があり、全客室 402（そのうちスイートは 55）の大型 5 つ星ホテル。

全部屋にバスタブと独立したシャワー室があり、日本からのお客様の要望に応えてくれるホテル。また、イズミールは国際会議なども多く開かれるだけあり、各部屋には独立したビジネスデスクがあり、観光、ビジネスともに快適に利用できるホテル。

さらにコーヒーメーカーは全室完備されている。冷蔵庫のなかも充実したドリンクの種類。

WIFI はロビーでは問題なく接続できたが、部屋では電波が弱いのか利用が出来なかったのが残念です。

最上階 9 階には、ダイニングレストラン(EQUINOX RESTAURANT)と SKY BAR があり、エーゲ海の素晴らしい景色を眺めながら贅沢なひと時を過ごせる。視察中は夕食時で、少し肌寒いのにもかかわらずバルコニー席は満席でした。

スタンダードルーム　27 ㎡

コーヒーメーカー全客室完備

バスタブと別に独立したシャワー室有り

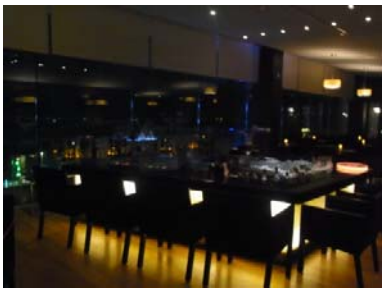
スタンダードルーム　27 ㎡

スイートルーム　58 ㎡

コーヒーメーカー全客室完備

ダイニングレストラン

バスタブと別に独立したシャワー室有り



SKY BAR

- アクロポリス、アスクレピオンについて

◆アクロポリス

7 日目(11/12)、9:10 ホテル発、11:00 ベルガマ市内着。

途中、ベルガマの研究をされている考古学の先生をピックアップし、オールドバザール前の広場にて、チャイを飲みながら学生たちの演奏にて歓迎を受ける。その後、オールドバザールバザーを散策、ベルガマは古代から羊皮紙が有名で、バザールの中には羊皮紙店もあり、

現代風にアレンジされた小さな壁掛けや小物類など、女性に好まれる雑貨が多い。散策後、車で 5 分ほど走りアクロポリス遺跡へ。

2006 年に訪問した際には遺跡の入口までバスで蛇行して丘を上っていったが、数年前より 6 人乗りのロープウェイが運行し始め、ベルガマの街を見下ろしながらスムーズに入口まで到着。

入口から直ぐのところに大きな円形の貯水槽がある。丘の上だったため水は貴重で、雨水を溜めて生活用水として使われていた。雨が少ない時期は、4 ㎞先の河川から水を引いてきたとの事。発電機もない時代に、下方から丘の上まで水を引く技術には、驚きます。

その後、メインである「トラヤヌス神殿」へ。ハドリアヌス帝が先帝トラヤヌスに捧げた大理石の神殿で、現在は柱のみ残る。

「トラヤヌス神殿」の奥に図書館跡があり、最もベルガマが栄えた紀元前 2 世紀の蔵書は 20 万冊で、アレキサンドリア図書館を抜いて世界一のとなったそう。しかし、それを妬んだエジプト(アレキサンドリア図書館)は、以後ベルガマへのパピルス紙の輸出を禁止した。

そこで、パピルス紙に代わる羊皮紙を発明し、更なる発展を遂げた。古代、ペルガモンと呼ばれたこの地の語源は、羊皮紙の独語名ペルガモントからきている、とのこと。

2006 年に訪問したのは 1 月の冬の空で、強風を遮るものがなにも無い丘の上で、湿った印象だけが残っていましたが、今回の視察は、澄み切るような青空と大理石の白い柱のコントラストがとても美しかったです。

次に、アクロポリスの丘の斜面を利用して作られた扇形に広がる劇場へ。まるでスキー場のジャンプ台(観客席)の様な急斜面で 15000 人収容出来たそうです。主に、神に捧げる式典などに利用されたとの事で、その根拠として、劇場の下方(舞台の右手)には、「ディオニソス神殿跡」があります。(舞台で神に捧げる式典＝＝＞直ぐそこにあるディオニソス神殿に奉納・・という、スムーズな流れを考えて造られたと考えられています)

最後に、「ゼウス大祭壇」へ。19 世紀にドイツの発掘隊によって発見され、当時の決まりとして、発見した者が 2/3 を持ち帰って良いとされていたそうで、祭壇のほとんどはベルリンのペルガモン博物館に展示されています。

発見当時、これらの遺跡の価値や重要性が理解されていたら、「発見した者が 2/3 を持ち帰って良い」というずさんな決まりも無く、

トルコのベルガマの博物館で「ゼウス大祭壇」を見る事が出来ていたかもしれません。。

しかし、その当時は、この地に遺跡を保存する技術が無かったので、ベルリンに運ばれたおかげで、古代当時の姿に修復され、博物館で見ることができるのだ、とも考えられます。いつか必ず、ペルガモン博物館で「ゼウス大祭壇」を見たいと思います。

オールドバザール前の広場で歓迎を受ける

オールドバザール散策中、トルコらしい一コマ

ロープウェイ乗り場と、ロープウェイからの景色

「トラヤヌス神殿」の下、土台となっている部分

大劇場

「トラヤヌス神殿」

◆アスクレピオン

遺跡の入口から 5 分ほど歩くと、当時の総合医療センターへの入口である「聖なる参道」にでます。石畳を 100m ほど進むと、蛇の刻を施した円柱が出迎えます。脱皮する蛇は「再生と治癒のシンボル」とされ、現在も「蛇」は医療のシンボルとして用いられています。

蛇の円柱を進むと、地下道の入口があります。80mほどのトンネルになっており、病人は治療室までこのトンネルを歩いて進みます。天井には光取りの窓が等間隔に空いていますが、病人が歩いてくると、医師が窓から「あなたは必ず治る」という様な言葉をかけて心理的、精神的に回復へ向かわせました。ことわざで「病は気から/百病は気から起こる/万の病は心から」などがあり、現在も良く使われていますが、正にこの医療センターでは、心理療法で治療を行っていた、とのことです。その為、比較的軽い病人向けの医療センターだったようです。

また、この医療センターには円形劇場もあり、この劇場も治療の一環として使われたとのこと。音楽や当時の催し物などを観て、ストレスや悩みから解放する音楽療法も治療方法として行われていた、との事です。

「聖なる参道」

「蛇の円柱」

トンネルの入口

トンネル内には水が流れており、癒し効果として水の流れる音が使われていた、とのこと

音楽治療として使われていた劇場

- TURSAB 主催セミナー、ワークショップについて

8 日目(11/13)、TURSAB の会長 Basaran ULUSOY 氏を訪問。ULUSOY 氏より、トルコには多くの魅力的なディスティネーションがあり、特に勧めるのは、マルディン、ハラン、シャンルウルファ、ハサンケイフなど南東の方、とお話しされました。

今回の地中海、エーゲ海地方とは異なる文化や景色が広がる南東についても、ツアーの企画が出来る日がくることを心から望みます。

その後、リュトフィクルダル・カンファレンスセンターへ移動し、TURSAB 主催のセミナーと意見交換会が行われました。

セミナーは、プロジェクターを利用しながらの説明（この際に使用された資料を TURSAB より譲って頂けます様、ご連絡をお願い致します）。

- 視察先の BEST 5

① ボドルム　地中海クルーズ
② アクヤカ　ボートクルーズ
③ マンダリンオリエンタルホテル(ボドルム)
④ サガラッソス遺跡
⑤ 村の模擬挙式

- ツアーアイティナリーをお考えください。(最低 1 つ、複数可)

① 地中海ボドルムとエーゲ海を満喫する旅 10 日間

	都市	スケジュール	宿泊地
1 日目	成田	TK53 便にてイスタンブールへ	機中泊
2 日目	イスタンブール ボドルム着	早朝、IST 着、国内線にてボドルムへ ボドルム着後、観光へ ボドルム城、マウソロス廟 地中海クルーズ(船上ランチ) ホテルへ	ボドルム泊
3 日目	ボドルム滞在	自由行動 **海水浴、街の散策などお楽しみください (OP)カラ島ツアーなど設定	ボドルム泊
4 日目	ボドルム発 クシャダス着	クシャダスへ 途中、ディディム遺跡、プリエネ遺跡、ミレト遺跡などに立ち寄り観光 ホテル着 市内、ギュヴェルジン島散策など・・	クシャダス泊
5 日目	クシャダス発 エフェス着 イズミール着	エフェスへ移動 エフェス遺跡、聖母マリアの家、博物館、アルテミス神殿跡など 観光の途中、昼食はシリンジェ村にて。 食後、シリンジェ村散策と自由行動 イズミールへ	イズミール泊
6 日目	イズミール発 ベルガマ着 イズミール着	ベルガマへ アスクレピオン、アクロポリス観光 昼食は、Les Pergamon Restaurant にて景色を楽しみながら 観光後、イズミールへ戻ります	イズミール泊
7 日目	イズミール発 パムッカレ着 イスタンブール着	パムッカレへ 午後、ヒエラポリス遺跡、石灰棚観光 夕刻の便でイスタンブールへ ホテルへ	イスタンブール泊
8 日目	イスタンブール滞在	終日、旧市街観光など	イスタンブール泊
9 日目	イスタンブール滞在	新市街やアジアサイドの観光 ボスポラス海峡クルーズなど・・ 夕食後、空港へ送迎	機中泊
10 日目	イスタンブール発 成田着	TK52 便にて帰国 解散	

※ボドルム、イズミール、イスタンブールで 2 連泊。
※ボドルム滞在とイズミール滞在のみにアレンジや、パムッカレを無くして 7 日目午前中にイスタンブールへ移動するなどのアレンジも良いかと思います。

- トルコの需要喚起（課題、対策、要望等など自由にご記入ください。）

1 ページ目のアスペンドスの項目に記載してしまいましたが、新しいディスティネーションをトルコのツアーに組み入れてゆくための課題は、以下のとおりです。

1. トルコの地中海の認知度が、ほぼ無い。
2. リゾートとして売り出すには、王道のハワイやアジアのリゾートに対して劣る。というイメージ。
3. トルコというと、イスタンブール、カッパドキア、パムッカレの西トルコ周遊ツアーが主流になり、10 万円を切る旅行代金が一般化されているため、「新しいディスティネーションを組入れる＝旅行代金の上昇」が受け入れられない。

解決策として・・

1. テレビ、雑誌などでの露出を多くする。特に、女性をターゲットに的を絞る。
2. リゾートとしてだけで売り出すのではなく、日本人観光客に受ける「遺跡周遊」も組み入れ、またトルコの文化の紹介や体験型ツアーを企画、また、地中海性気候の為年間温暖なアンタルヤは、オフシーズンといわれる 11 月～3 月がホテル料金も下がり、おすすめ。
3. 「新しいディスティネーションを組入れる＝旅行代金の上昇」を受け入れてもらう解決策の一つは、『付加価値のある企画』を組入れること(積極的に)、であると思います。

また、トルコ全体の認知度を上げる方法として、トルコのドラマを日本で放映するするのはいかがでしょうか。

韓国ドラマで、一大ブームが起こり韓国ファンが増加したように、トルコのドラマにも魅力があり、受け入れられるのではないかと考えています。トルコ国内で大きな反響があった「Muhtesem Yuzyil (華麗なる時代)」は、オスマン帝国時代で一番繁栄したスレイマンン大帝の時代の話で、歴史好きの日本人には最適ではないかと思います。歴史以外でも、このドラマの魅力は、当時の服装、食事、生活形態なども詳しく描かれており、最適なドラマと思っています。

- 研修旅行においての感想（よかった点、改善点、要望など自由にご記入ください。）

今回の研修旅行では、大変素晴らしい経験をさせて頂き、心からお礼申し上げます。

トルコには、地中海、エーゲ海に囲まれた素晴らしい地域があることを改めて実感しました。地中海地方の魚料理、ボドルムクルーズの船上で頂いたバーベキュー(キョフテなど)は、本当に美味しく、ツアーでも組み入れたいとおもいます。

新しいディスティネーションとして、提案し、商品化して頂けるように努力しててゆきたいと思います。

以上